

学校名	東京都立大泉桜高等学校	課程	全日制	科 コース	(令和2年度入学生) 学年：(2) 学級数：(5)
-----	-------------	----	-----	----------	------------------------------

各教科 ・科目	学 年 類 型	標準 単位 数	1 学年			2 学年			3 学年			※科目ご との履修 単位数
			必修	学校必修	自由選択	必修	学校必修	自由選択	必修	学校必修	自由選択	
外国語	コミュニケーション英語基礎	2										0
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	4(8)									4
	コミュニケーション英語Ⅱ	4					4(8)・				2(4)	0～6
	コミュニケーション英語Ⅲ	4									3(8)・	0～3
	英語表現Ⅰ	2					2(4)				2(5)	0～4
	英語表現Ⅱ	4										0
	英語会話	2										0
家庭	家庭基礎	2				2(10)						2
	家庭総合	4										0
	生活デザイン	4										0
情報	社会と情報	2	2(5)									2
	情報の科学	2										0
外国語	中国語入門	2									2(1)	0～2
普通教科・科目単位数計			25～27			18～28			11～29			54～84
体育	スポーツⅡ	10			2(2)□			2(2)			2(2)	0～6
音楽	器楽	3									2(2)	0～2
	演奏研究	6									2(1)	0～2
美術	素描	6			2(6)□			2(6)			2(6)	0～6
	構成	2						2(5)				0～2
	絵画	6						4(2)			4(2)	0～8
	ビジュアルデザイン	6						4(3)			4(2)	0～8
	クラフトデザイン	6						2(3)			2(1)	0～4
	映像表現	6									2(1)	0～2
家庭	服飾手芸	2～4									2(1)	0～2
	ファッション造形基礎	2～6									2(1)	0～2
	フードデザイン	2～6									2(2)	0～2
	子どもの発達と保育	2～6									2(1)	0～2
	子ども文化	2～4									2(1)	0～2
情報	アルゴリズムとプログラム	2～6						2(2)			2(1)	0～4
	表現メディアの編集と表現	2～6									2(2)	0～2
福祉	社会福祉基礎	2～4			2(3)□							0～2
	コミュニケーション技術	2～4						2(3)			2(4)	0～4
	介護福祉基礎	2～6						2(3)			2(1)	0～4
商業	ビジネス基礎	2～4						2(2)			2(3)	0～2
	経済活動と法	2～4									2(1)	0～2
	情報処理	2～4						2(1)			2(1)	0～2
福祉	子ども家庭福祉	2								2(1)	0～2	
専門教科・科目単位数計			0～2			0～10			0～18			0～30
総合的な探究の時間			2			1						3
ホームルーム活動			1			1			1			3
生徒一人当たりの履修単位数計			30			30			20～30			80～90
習熟度別授業 少人数指導授業			習熟度別授業 1年:数学Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅰ:5学級8展開、 2年:古典B・コミュニケーション英語Ⅱ:5学級8展開、3年:コミュニケーション英語Ⅲ:5学級8展開 少人数授業 国語表現(3年)、体育(1～3年)、スポーツⅡ(1～3年)、器楽(3年)、美術Ⅰ(1年)、美術Ⅱ(2～3年)、 美術Ⅲ(3年)、素描(1～3年)、構成(2年)、絵画(2～3年)、ビジュアルデザイン(2～3年)、クラフトデザイン(2～3年)、 英語表現Ⅰ(2～3年)、家庭基礎(2年)、服飾手芸(3年)、ファッション造形基礎(3年)、子どもの発達と保育(3年)、 子ども文化(3年)、フードデザイン(3年)、コミュニケーション技術(2～3年)、介護福祉基礎(2～3年)、子ども家庭福祉(3年)									
備考			<ul style="list-style-type: none"> 1年次の▲のうち1科目が必修である。△□は卒業要件としての必修ではないが、それぞれのうちいずれか1科目を選択する。 人間と社会は「総合的な探究の時間」(1年次・1単位分)により代替する。 2年次の自由選択は卒業要件としての必修ではないが、・は全員が受講するよう指導し、無印のうち10単位分を受講するよう指導する。 3年次の自由選択は卒業要件としての必修ではないが、・は全員が受講するよう指導し、無印のうち少なくとも10単位分を受講するよう指導する。 卒業のため、74単位以上修得するよう指導する。 									